

## 26年3月分

## 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
3月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
入荷動向	国産材製材品	14.3	35.7	35.7
	外材製材品	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	その他	0.0	0.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 14.3	△ 50.0	△ 50.0
	外材製材品	7.1	△ 21.4	△ 21.4
	その他	△ 10.0	△ 30.0	△ 30.0
在庫動向	国産材製材品	35.7	28.6	28.6
	外材製材品	7.1	△ 14.3	△ 14.3
	その他	0.0	0.0	0.0

国産材製材品の入荷は増加傾向で推移、外材は3月のやや増加が4、5月はやや減少に。

国産材製材品の販売は減少傾向で推移、外材は3月のやや増加が4、5月には減少に。

国産材製材品の在庫は増加傾向で推移、外材は3月の増加が4、5月は減少。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 14.3	△ 28.6	△ 28.6
	柱角 KD12×3	△ 14.3	△ 28.6	△ 28.6
	通し柱 12×6	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	桁角	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	母屋角	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	タルキ	0.0	△ 21.4	△ 21.4
	間柱	△ 14.3	△ 28.6	△ 28.6
	加工板	△ 8.3	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	△ 7.1	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 21.4	△ 50.0	△ 42.9
	柱角 KD12×3	△ 35.7	△ 50.0	△ 42.9
	土台角 10.5×4	△ 42.9	△ 50.0	△ 42.9
	土台角 12×4	△ 42.9	△ 57.1	△ 50.0
	通し柱 12×6	△ 8.3	△ 33.3	△ 41.7
カラマツ土台角10.5×4	—	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	8.3	0.0	
米マツ割物	16.7	16.7	8.3	
北洋エゾマツタルキ	0.0	16.7	16.7	
北洋アカマツタルキ	0.0	10.0	20.0	

スギKD柱、通し柱、桁、母屋及び間柱は弱含みないし弱保合、タルキは3月の保合が4、5月は弱保合に、加工板は3月のやや弱保合が4、5月は横ばいに、ヌキは横ばいで推移、平割は3月の保ち合が4月のやや弱保合を経て5月は保合に。

ヒノキ製材品は総じて弱含みないし弱保合に。

カラマツ土台は横ばいで推移。

米マツ平角は3月の保合が4月のやや強保合を経て5月は保合に、同割物は、やや強保合で推移。

エゾマツタルキ及びアカマツタルキは3月の保合が4、5月にはやや強保合に。

## モニターからのコメント

・製材品の入荷は全体的に良い、1月頃から販売量は落ちてきており4月以降も続くとする。買い手は単価がもう少し下がると見ており買い控えている様子で在庫を処分し難い状況。スギ柱、桁等の価格はヒノキに比べれば下がっていないが、下げ基調、タルキは横ばいを維持。ヒノキ柱、土台等は3月中頃から原木価格が下がり、それに伴い製品価格も下げ基調。米マツ、北洋エゾマツタルキ及びアカマツタルキは横ばいを維持。

・ヒノキ土台・柱など入荷良好、品薄感なくなり、これまで価格急騰したことから様子見に、スギ間柱、羽柄材はまだ、品薄感あり価格上昇続く、外材の一部製品に品薄感出てきており、為替の影響で値上げ傾向。ヒノキ製品の一般材在庫は増加傾向、その他は入出荷のバランス取れている。スギ柱KDは入荷、販売良好、桁、母屋はグリーン材から入荷増も、KD材まだ少なく品薄感、羽柄材は思ったほど東北材増えず品薄感、今後回復見込み。ヒノキ製材品はKD材中心に入荷増、品薄感なくなり価格も落ち着く様子。米マツ製品は為替の影響、品薄感もあり少しずつ上昇、エゾマツ、アカマツタルキは安定販売。

・スギ及びヒノキ製材品の入荷順調、国産材製材品の販売は原木値下がり様子見、プレカット工場からの引き合いが少ない。

・国産材は東北復興次第で荷動き増加、商社は3月決済次第で荷動きがある。消費税がらみで3月の在庫確保の動き、国産材及び外材共に在庫はやや増加。スギ柱角KDはWW集成に比べ扱い少ないが単価横ばい、桁は東北材で42,000円/m<sup>3</sup>、母屋角は丸太少なく特42,000円/m<sup>3</sup>、バタ角は28,000円/m<sup>3</sup>、タルキはグリーンで45,000円/m<sup>3</sup>、間柱はKDで66,000円/m<sup>3</sup>、加工板グリーン材2,800円、KD3,800円、ヌキは秋田50,000円/m<sup>3</sup>、岩手45,000円/m<sup>3</sup>、平割はプレーナー48,000円/m<sup>3</sup>、ラフ40,000円/m<sup>3</sup>。ヒノキ製材品は動き少ない。米マツ平角はプレカットで使用、動きは少ない、ツガは良材少なく、米マツタルキに動き。アカマツタルキは品薄感なく横ばい。

・国産材製材品の販売は、構造材の需要は一段落、柱角、土台角の相場は弱め。在庫は動きいまひとつだが入荷もそれほど多くない。スギ柱角は下がり始めている、通し柱はまだ入荷多くなく、横ばい。羽柄材はヌキが品薄だが一時のひっ迫感はない。ヒノキ土台120cm角は急激に引合いが弱くなった、スギと同様弱含み。

・外材の入荷は仕入れのため変化なし、販売2月後半からプレカットの動き少し弱くなり全体的に落ち着いている。在庫はスギグリーン材が徐々に増加。スギKD柱、間柱中心にAD及びKD材はまだ品薄で単価も下がっていないが、4月以降の需要落ち込みに伴い徐々に下がって来る見込み。スギ丸太は下がって